

「突然の解散」そのわけー4

安倍晋三首相が突然の解散をした理由は何か？

「ホワイトカラー・イグザンプション」という言葉は、最近になって聞くようになった言葉です。なじみのない言葉ですが、要は働く人がいくら残業してもその分の給料や手当は払わなくてもいいことにしようということです。さらには国際的な基準で規定されている年間総労働時間の考え方の枠から、日本人を外そうとしているともいえます。

日本人はただでさえ働き過ぎです。その働き過ぎの犠牲者は、本当はまずもって働く人本人なのです。ホワイトカラー・イグザンプションを安倍政権の思うがままに、経済界の思うがままに許してしまったら、今よりもずっと多くの日本人が、過労によって健康を害し、精神を病むことになり、果ては自殺にまで追い込まれてしまうでしょう。

「与えられた仕事・任務をこなしてしまえば、働く時間は自由になる」というのが彼らの言い分です。ではその与えられる仕事が適正量かどうか、本当に給料に見合うだけのものかどうか、誰が決めるのでしょうか。製造業に従事する人々（ブルーカラー）なら、製品の量や質で判断できるかもしれませんが、それさえ、現在の法定労働時間を操作されてしまえばどうなるかわかりません。

しかし、事務職や中間管理職（ホワイトカラー）の任務や仕事の場合では、量、質ともに、どうやって図るのでしょうか。図ることはできません。

今でも、サービス残業などという欧米では「悪魔の辞典」にしか出て来ない言葉が当たり前の日本です。そのサービス残業という言葉さえなくして、働く人を限りなく企業の利益のために縛り付けようとしているのが「ホワイトカラー・イグザンプション」なのです。

わたしが気になってしょうがないのは、それだけではありません。働きすぎを強いられる人々の、その分放っておかれる配偶者や子どもたちのことが心配なのです。

わたし達は、特に30代、40代のわたし達は何のために働くのでしょうか。産業革命以来のわたし達の就労パターンは、一日の内、3分の1を労働にあて、3分の1を睡眠などの休息にあて、残りの3分の1を食事やリクリエーション、家族だんらんにあてるとい風になっています。それが身体的にも、精神的にも人間らしい生活パターンなのです。

仕事そのもの、働くことそのものに喜びや達成感を見出すことは素晴らしいことです。それだけでなく、自立し、家族を養い、余力があれば隣人や近隣コミュニティーのために寄与するという暮らしを実現するために、わたし達は働いているはずです。

働き盛りの人々を家庭から遠ざけ、子ども達から遠ざけ、子ども達が一番親を必要とする時期に、親とのコミュニケーションやスキンシップが十分にはできない状況になることは、家庭を破壊し、地域コミュニティーを破壊し、日本の社会そのものを破壊してしまいます。それでも「今だけ」「金だけ」「自分だけ」政権と経済人は、自分たちの利益のためだけに、日本人をそんな風に追い込み、日本の未来を喰い尽くそうとしています。

今度の選挙はわたしたちにとって安倍政権にブレーキをかけることのできる最後のチャンスです。今こそ、わたしたちが「目くらまし」に負けずに安倍晋三の真意を見抜けることを彼に思い知らせなければなりません。

あなた自身と、あなたの大切な子ども達、孫たち、そしてわたし達の未来

を守るために、安倍政権に国民の「ノー」の意志を突き付けるために、

絶対に投票に行きましょう。